

2022年1月28日

瀬戸市長

伊藤 保徳 様

瀬戸市教育委員会

教育長 横山 彰 様

瀬戸市教職員労働組合
執行委員長 甲斐雄彦
(瀬戸市立幡山東小学校)

団地学校統廃合に関する要請書

日頃より、児童生徒の安全対策・教職員の多忙化解消のため
にご尽力いただき、ありがとうございます。瀬戸市は、菱野団地内の児童数減少などを受けて、団地内の
原山小学校、萩山小学校を2026年4月に八幡小学校に統合
する案を発表しました。また、現在萩山小に設置されている特
別支援学校「さくらんぼ学園」の小学部についても28年秋以
降、すでに中学部・高等部がある光陵中学校に集める計画を示
しました。そして、市は12月初旬以降、各校で説明会を開く
ことを新聞報道しました。しかし、学校の統廃合の審議が進められる中で、市民・保護
者・住民及び教職員の声が十分届いていないことは大きな問題点
です。学校は市民の共有財産であり、多くの市民の合意形成の
もとで統廃合の検討がなされるべきです。

記

1. にじの丘学園の検証を踏まえての学校統廃合の審議を行い、
広く市民・保護者及び教職員・子どもとの意見交換の場を設
定してください。
2. 団地学校統廃合に関する計画を中断し、これまでの経過を
市民に周知してください。
3. 光陵中学校へのさくらんぼ学園の統合は多くの問題を含ん
でおり、計画を撤回してください。

光陵中にさく
らんぼ学園を
統合するのは
無理

新聞報道では、光陵中学

Dの中で、低水準です。
日本の教育予算はOECD
「ゆとり」の大切さがクロ
ーズアップされています。
しかし、少人数学級こそ
教育効果があり、安全な
学校です。福祉・教育に
予算をまわし、国民が豊か
さや幸福を実感できる政策
を示してほしいものです。
コロナ禍で少人数学級や
「ゆとり」の大切さがクロ
ーズアップされています。学校数の削
減、少人数教
育に逆行さくらんぼ学園
保護者アンケ
ー
ト実施・今後10〜20年の小中学
生の推移と特別支援学校児童
生徒の推移を考慮して、教室、
通路、駐車スペース、体育館
の利用、プールの設置、多目
的室などをつくっていただき
たい。
・一年間を通して、困ってい
ることを先生たちや子どもた
ちから聞き取りをしてもらい
たい。
・車での登下校が安全にでき
るようにしてほしい。小中一
緒になると児童生徒が増える
ので、光陵中生徒への車の接
触、親同士の事故がないよう
に考えてもらいたい。
などの保護者意見が出されま
した。急いては事を仕
損じる瀬戸市は、原山小学校、萩
山小学校を2026年4月に八
幡小学校に統合する案を発
表しました。また、特別支援
学校「さくらんぼ学園」を2
8年秋以降、光陵中学校統合
する計画を示しました。新聞
報道の発表に、多くの市民か
ら「また見切り発車か」との
声が上がっています。計画を
白紙に戻し、市民との対話か計画の押し付け
でなく市民の声
は？、にじの丘の
検証を！
児童数の急減を理由にあげ
ていますが、教育は先を見通
すことが大切です。将来的にらスタートすべきです。市民
合意のないままの推進は認め
られません。地域がどのように発展してい
くのか検討も不十分と言わざ
るを得ません。団地内では原
山台に於いて高層住宅の建て
替え中であり、八幡・萩山の
地区でも地域が生まれ変わる
うとしています。にじの丘の
検証を踏まえ、地域をどうつ
くっていくのか、市民・住民
と議論を深めていかなければ
なりません。「学校は地域の宝」
学校の統廃合だけでなく町づ
くりの視点が大切です。適正規模適正
配置と小中一貫
教育というが：瀬戸市は、「小規模校では社
会性が身に付かない」「部活動
ができない」などとし、複数
がでない「などとし、複数
学級で切磋琢磨する教育の実
現という名目で適正規模・適
正配置を進めてきました。ま
た、「小中一貫」であたかも教
育成果が上がるように宣伝し
ています。これらは、新自由
主義のもとで、公共部門の切
り捨て・合理化冷たい国の政
策の一環です。校に「さくらんぼ学園」を統
合する声となつていますが、現
場の声を反映したものととな
っていません。
施設を改良しても、とても
窮屈で、光陵中の生徒にとつ
てもさくらんぼの児童・生徒
にとつても不自由を強いられ
ます。
特別支援学校との交流に重
点を置くなら、にじの丘学園
以上敷地と施設が必要で
現在コロナ感染が広がる中
で、交流は逆に控えるなけれ
ばなりません。インフルエンザ
の流行中でも、萩山小では接
触は避けるという実態です。
さくらんぼ独自の学校の方が
安心安全と言えるでしょう。

事業主には書面明示の義務がある